

■ディスカッション

『ジョージの物語』に学び、私たちの次の一歩につなぐために

【パネリスト 略歴】

豊田 郁子（とよだ いくこ）

IMS グループ新葛飾病院 セーフティマネージャー

患者・家族と医療をつなぐNPO 法人「架け橋」理事長

2003年3月、医療事故により長男（当時5歳）を亡くす。同年12月より医療事故・医療安全に関する講演活動を始める。2004年10月から新葛飾病院に勤務、医療安全対策室・患者支援室を開設。2008年より厚労省「診療行為に関連した死亡に係る死因究明等の在り方に関する検討会」構成員。同年11月、新葛飾病院患者支援室が「第1回新しい医療のかたち」賞（医療の質・安全学会）を受賞。2008年～患者の視点で医療安全を考える連絡協議会 事務局長。2009年～日本医療機能評価機構 産科医療補償制度原因分析委員会委員。

〈著書〉

『うそをつかない医療—患者と医療者をつなぐ仕事』亜紀書房、2010年

岡本 左和子（おかもと さわこ）

奈良県立医科大学健康政策医学講座 講師

1995年より米国にあるジョーンズ・ホプキンス病院国際部アジア地域副部長（後に部長）。ペイシエント・アドボケート（患者の視点を医療に活かせるよう支援し、医療従事者と患者のコミュニケーションを円滑にして、納得して医療を受けてもらう調整役）として勤務。2006年、米国メリーランド州立タウソン大学でコミュニケーション学修士号を修得。2013年、東京医科歯科大学大学院医歯総合研究科において博士号を修得。2013年9月より現職。

〈著書・執筆〉

『患者第一 ～最高の医療』講談社α新書、2003年

『がん哲学外来コーディネーター』樋野興夫編、p.83-87、医学評論社発売・みみずく舎発行、2013年
医療コラム「診察室のワルツ」毎日新聞、2011年6月～2015年3月

医療コラム「日曜日に考える」日経新聞、2015年8月（4週掲載）

『どうなる！ どうする？ 医療事故調査制度』石川寛俊監修／医療情報の公開 開示を求める市民の会編、p.67-84、さいろ社、2015年

松村 由美 (まつむら ゆみ)

京都大学 医療安全管理部 病院教授・医療安全管理室長

1994年、医学部卒業、皮膚科医師。2011年より京都大学医学部附属病院医療安全管理室長。患者の意思決定を支援するための文書整備（インフォームド・コンセント）や倫理相談を受ける体制を作った。医療対話推進者養成研修を院内で実施している。また、患者との関係に悩む医療者からの相談も受けている。

〈執筆〉

2015年より京都新聞のコラム「現代のことば」

高橋 英夫 (たかはし ひでお)

名古屋大学大学院医学系研究科 救急・集中治療部 准教授

1981年、大阪大学医学部卒業後、集中治療および麻酔科臨床業務に従事。1988～1991年、米国ジョーンズ・ホプキンス病院麻酔科リサーチフェロー留学中、麻酔科 Quality Assurance 部門を知り、医療の質に興味を持つ。2000年、日本版 National Demonstration Project Phase1、2（医療の総合的質管理に関する研究プロジェクト）に参加。医療安全全国共同行動では行動目標6「急変時の迅速対応」（RRSの確立）、行動目標7「事例要因分析から改善へ」（M&Mカンファレンスの普及）を担当。臨床救急医学会患者安全検討推進委員会 RRS WG 委員として活動、名大病院医療の質安全管理部兼任 GRM、救命の質向上 WG 委員長として安全管理及び RRS の運用を推進。

〈執筆〉

『医療安全 実践ハンドブック』医療安全全国共同行動技術支援部会編（一般社団法人 医療安全全国共同行動刊、2015年）

【司会 略歴】

山内 桂子 (やまうち けいこ)

医療安全全国共同行動 技術支援部会 行動目標8「患者・市民の医療参加」代表

1977年、九州大学教育学部教育心理学専攻卒業。2003年、九州大学大学院医療経営・管理学専攻修了（医療経営管理学修士）。1991年より国立小倉病院附属看護学校はじめ大学・短大等で心理学の非常勤講師。2004年より東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室に勤務し、各地の病院や職能団体等での研修やリスクマネジャーの支援業務を担当。

医療の質・安全学会、医療安全全国共同行動において医療安全に関する社会的な活動にも関わっている。

〈著書・主な執筆〉

『医療事故—なぜ起こるのか、どうすれば防げるのか』朝日文庫、2005年

『医療安全とコミュニケーション』麗澤大学出版会、2011年

『病院で働くみんなの医療安全』東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室著、日本看護協会出版会、2015年

「医療事故に関わった看護師の業務継続に伴うストレスとサポートの検討」病院管理 Vol.41 No.1、2004年